

しらかわの 身近な文化財

第十八話
お盆と盆踊り

お盆は、祖先の霊を供養し、
これを送るための行事です。

江戸時代の記録『奥州白川風俗問答』によれば、白河地方のお盆は江戸と同様の形で行われていたといえます。それは、盆棚を作って餅や団子を供え、ナスやキュウリで牛馬をつくり、家々の門口で迎え火・送り火をするといったものです。

現在も、お盆の時期になると家の前でタイマツ（松の根）を燃やす風景が町のあちこちで見られます。

また、お盆に欠かせない行事として、盆踊りがあります。江戸時代は村ごとに行われていましたが、白河藩の飛び地である

越後から移住する者が増えると、越後風の踊りも流行したといえます。

現在、市内では本沼、表郷竹ノ内・梁森、大信中新城、東釜子などの地域で盆踊りを行っています。多くの場合は広場の中央に櫓を組み、その上で若者が絶えず太鼓を打ち続けます。地域により、笛や唄が入ることもあります。参加者は櫓の周りで輪になって踊ります。

このように、お盆に関する風習や行事は昔ながらのやり方が今に続いているものも多く、身近な文化財のひとつといえます。

問文化財課 ☎ 2310



▲盆の迎え火（『大信村史 第3巻 民俗編』より）



▲盆踊り（表郷竹ノ内）

★ 新生 白河実業 Vol. 5 ☎ 白河実業高校 ☎ 241176

★ 生徒たちの輝かしい活躍を紹介します



自転車競技部が、8月に北海道で開催される全国高等学校総合体育大会に出場します。



商業研究部の鈴木海人さんが第40回全国商業高等学校英語スピーチコンテストに出場します。



日本各地の特色ある優れた漬物レシピを表彰する「漬物グランプリ2023」学生の中で、園芸部が作った「黄金梅干し」と「乳酸発酵たっぷりのからし菜のがっこいぶり！」が金賞を受賞しました。



SDGs ⑮
陸の豊かさを守ろう

JRC委員会と農業クラブが南湖公園の環境美化活動を行いました。